

[佐野市]

このページでは、個性豊かな県内各市町の姿をご紹介します。
今回は、グルメやアウトレットで注目を浴びる佐野市についてご紹介します。

豊かな歴史を背景にラーメン・アウトレット等
新たな展開で発展する市



●唐澤山神社神門

佐野市は、歴史の香りたどる落ち着いたたたずまいが魅力です。市の中心部には城下町に由来する碁盤目状の町割り、また江戸街道や例幣使街道の宿場町として栄えた商家が各所に残り、徳川家康由来の佐野厄よけ大師（惣宗寺）には毎年150万人もの参拝客が押し寄せます。

一方で最近の佐野市は、新たな発展を見せるようになりました。そのきっかけの第一は、やはり「佐野らーめん」でしょう。今でこそご当地ラーメンによる町おこしは珍しくなくなりましたが、佐野らーめんは昭和50年代後半より地道な普及活動を展開し、今では全国的にその名が知られています。最近では「いもフライ」「大根そば」「耳うどん」などのB級グルメ的な名物の知名度もアップ、いまや佐野市は関東屈指のグルメの街となりました。

もう一つは、交通の要衝としての利を活かした大規模商業施設の展開で、その典型が平成15年に開業した佐野プレミアム・アウトレットです。最近では市全体の入込客数で年間857万人以上にもなり、週末ごとに県内はもとより関東一円から多くの人々が訪れています。

今、佐野市は歴史、グルメ、ショッピングなど、さまざまな観光資源を結びつけ、さらなる発展をめざしています。

「グルメ」の街、佐野市

ラーメン、耳うどん、大根そばやいもフライなど、身近な味が人気です！

佐野らーめん

佐野グルメを代表するのが、「佐野らーめん」です。佐野らーめんは、名水として有名な佐野市の水を使い、青竹打ちの製法で打った腰のある平打ち麺が特徴で、スープは醤油味のさっぱりめ。市を訪れたゴルファーなどのロコミから人気は広まり、その後のラーメンブームも手伝って大人気となりました。今では市内に200軒以上のラーメン店が軒を連ねています。



いもフライ

蒸したジャガイモを串に刺して揚げ、特製ソースをかけて仕上げたもの。ジャガイモの甘味がソースとベストマッチで、小腹がすいたときにはつい思い出す味です。

★佐野市観光協会のホームページでは、市内で佐野らーめんやいもフライを賞味できる店をまとめたマップを掲載しています。

大根そば

明治時代より郷土食として食べられてきた大根そば。食べ方は店により多彩で、千切りにした大根をそばと一緒にゆでたり、生のまま上にのせたりし、混ぜて食べるメニューです。独特の触感はやみつきに。



耳うどん



市内仙波町で、昔からお正月に食べられてきた料理で、小麦粉をねった生地を鬼の耳に見立て、耳形に整形してつゆに入れて食べます。無病息災や近所付き合いがうまくいくなど、縁起の良い言い伝えがあります。

佐野市の見どころ



●三滝

旗川の源流にあり、一の滝から三の滝まで3段・落差45mの滝。県内7番目の高さで四季を通して水量も豊富、深山幽谷の絶景は利根川水系100選にも選ばれました。

●あきやま学寮

家族から団体まで幅広く利用できる、アウトドアライフの拠点となる宿泊施設です。ログハウスのほか堅穴住居・横穴住居もあり、古代生活を体験できます。



●唐澤山神社

築城主と伝えられる藤原秀郷を祀り、本丸跡の唐沢山山頂に明治16年に建立された神社です。境内には多くの史跡が残り、また初詣の名所としても人気です。



●田中正造旧宅

明治時代の足尾銅毒事件の解決に尽力した田中正造の生家。昭和32年に県指定史跡となり、展示などを通じてその生涯を学べます。



●三滝

●あきやま学寮

●唐沢山城跡

標高247mの唐沢山山頂に本丸を置き築かれた佐野氏の居城で、関東七名城の一つに数えられる名城でした。もとは平将門を破り、「むかで退治」の伝説で有名な藤原秀郷が築城したと伝えられ、戦国時代には上杉謙信の10度にわたる猛攻を退け、関東一の山城と讃えられました。現在は石垣、大手枡形、土塁、堀切、井戸などが残り、県立自然公園として一年を通じて訪れる人が絶えません。平成26年3月、国指定史跡に登録。



●宇津野洞窟

約2億6000万年前に形成された石灰岩が地下水で溶かされてできた洞窟で、気温15度程度のひんやりした内部では、鍾乳石・石筍などを見ることが出来ます。佐野坂東32番の札所で、安蘇八景の一つです。



●佐野プレミアム・アウトレット

首都圏から70キロ圏内、東京から日光への観光ルートに位置して市内に高速道路の3つのインターチェンジを持つという、佐野市の地の利を十分に活かした郊外型の大規模アウトレットセンターです。



●日光例幣使街道等の旧家

県道67号線沿いは、かつて東照宮の大祭に朝廷から遣わされた使者が通る日光例幣使街道でした。市内には、古い家並みの残る地区が複数ありますが、この街道は、江戸後期～明治期の見世蔵造り・瓦屋根の商店などが多く残ります。



小湊呉服店



大阪屋

●佐野東照宮（惣宗寺境内）

関東の三大師の一つ、「佐野厄よけ大師」の通称で親しまれるのが惣宗寺。江戸時代、徳川家康の遺骸が久能山から日光に改葬される道中、霊柩が宿泊した縁で幕府の庇護を受けるようになり、文政11（1828）年にそうした古事に因んで東照宮が建立されました。社殿は日光東照宮を模して精巧な彫刻や極彩色の装飾が施され、昭和57年に県指定の重要文化財となりました。



惣宗寺境内の佐野東照宮社殿

News

東日本大震災の被災と相まって、耐震強度不足が明らかになり、現在、新庁舎を建設中。
新庁舎は10月中旬完成、12月上旬に全面開庁の予定です。市政の新たな要として期待されています。



建設中の新庁舎

profile

●佐野市

現在の佐野市は、平成17年2月28日に旧佐野市・旧田沼町・旧葛生町の1市2町が合併して誕生しました。

「佐野」の地名が歴史上、初めて登場するのは平安時代の文書の荘園名です。その後、鎌倉～室町時代にかけては佐野氏が一帯を支配。戦国時代には、拠点として関東有数の山城・唐沢山城が築かれました。江戸時代に佐野氏は改易となり、以後、付近の支配は点々となりますが、明治時代には一時、佐野県ができた後は栃木県に統合され、明治22年の市制・町村制の施行で今の姿の原型ができています。

▶面積：356.04平方km
▶人口：121,368人（49,942世帯）
（平成27年8月1日現在）